

あがつま



『わたしたちは見えるものではなく
見えないものに目を注ぎます。
見えるものは過ぎ去りますが、
見えないものは永遠に存続するからです』

(コリントの信徒への手紙Ⅱ 4章18節)

♪ 賛美歌を歌おう④

『主を待ち望むアドヴェント』

(こどもさんびか改訂版165番)

アドヴェント(クリスマス
前の4週間)の礼拝では、4
本の赤いロウソクを立てたク
ランツ(環)に、毎週1本ず
つ火を灯します。1つ、2つ
と、ロウソクの火が増すごと
に、救い主の到来が近づいて
くることを感じます。

作詞者の、マリア・フェルシ
ユル(1895・1982)はオーストリ
ア・ウイーンで教師をして、
ドイツ語や音楽を教えていま
した。また第二次世界大戦の
後、西ドイツに移住して、小
説や子どものための聖書、詩
編の翻訳、賛美歌の創作など、
多岐にわたる文筆活動を行
いました。

この賛美歌詞は1954年に、当

時のカトリック教会における
アドヴェントの聖書日課に合
わせて作られました。この歌
詞には多くの作曲家が旋律を
つけていますが、カトリック
の音楽家であるハインリッヒ
・ロール(1902・1997)の旋律が
採用されています。この賛美
歌はドイツのカトリック教会
で創作されましたが、カトリ
ック教会のみならず、プロテ
スタント教会でも広く愛唱さ
れています。

吾妻教会でも、この『主を
待ち望むアドヴェント』を礼
拝で用いています。アドヴェ
ントの礼拝で「主の民よ、よ
ろこべ 主はちかい」と歌い
ながら、克蘭ツのロウソク
に火を灯します。

(稲垣)



